

土・ひと・くらしをつなぐ、香川の交流誌

 **JA香川県**
～農業と地域に全力投球～

きらり

1

2022 JANUARY

【あぐりSPECIAL】

今年^{＼寅／}のトライ!

**JA香川県の挑戦
私たちの挑戦**

今年こそ始めたい!

【らいふSPECIAL】

学んで、育てるお金とのおつきあい。
JA香川県の「ライフプランサポート」

迎春

「今年もおいしく育ちました。」
**みずみずしいレタスで
元気をチャージ!**



**JA香川県は
自己改革に
取り組んでいます!**

農業者の所得増大

農業生産の拡大

地域の活性化

新春
特別企画

／寅／

今年のトライ! JA香川県の挑戦 私たちの挑戦

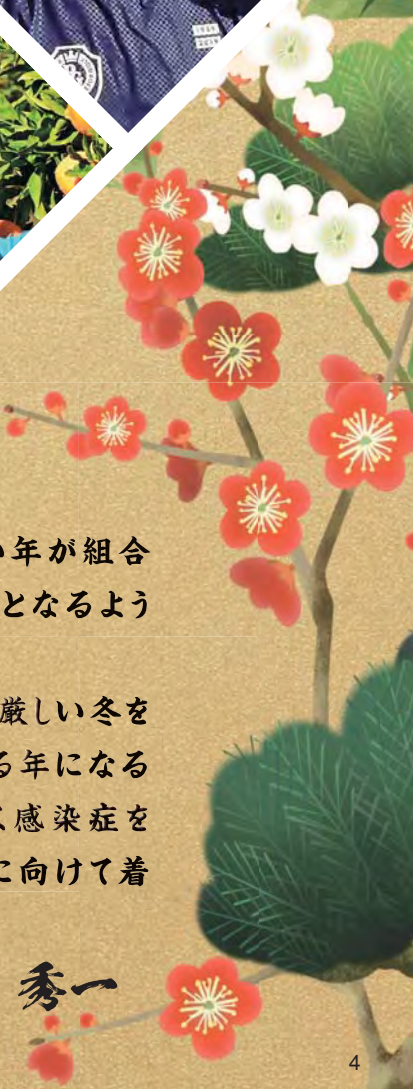


2022 謹賀新年

あけましておめでとうございます。新しい年が組合員や利用者の皆さまにとって、幸多い年となるようご祈念申し上げます。

今年の干支は「^{みずのえとら}壬寅」です。^{みずのえとら}壬寅とは、厳しい冬を越えて芽吹き初め、新しい成長の礎となる年になると言われています。新型コロナウイルス感染症を乗り越え、農業の振興と地域の活性化に向けて着実に進んでいく年にしていきたいと思います。

木内 秀一



前へ進もう。Go ahead!



JA香川県
代表理事 理事長

木内 秀一

さぬき市出身。昭和55年に香川県農業協同組合中央会(当時)に入会。令和元年6月より現職。自身の「今年のトライ」は「できるだけ多くの人と対話する」。また「家で食べるご飯がおいしくてコロナ太りしたので、体重を5kg落としたいです!」。

昨年は、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、組合員や地域の皆さまとの対話活動がほとんどできませんでした。また、女性部、青壮年部、生産者部会などの活動も制約を受け、ご不便をおかけしました。昨年10月以降は感染状況が小康状態になったことから、感染防止対策を徹底しながら各種活動を再開しています。

コロナショックにより、世の中の動きは「非対面・非接触」が急速に進んでいます。当JAでも、こうした動きに対応してICT(情報通信技術)の活用を拡充していますが、協同組合組織のあり方として、これからも対面での対話活動を重視していきたいと考えています。

農業振興へトライ!

持続可能な農業の実現

現在、当JAでは令和4年度から3年間の「第7次中期経営計画」と「営農振興3か年計画」を策定中です。10年後の香川県の農業があるべき姿と、その実現のため取り組まなければならない課題を抽出し、実践方策を盛り込む予定です。

JAの最重要使命は「農業経営の維持・発

展」、すなわち農業者の所得増大です。そのための方策のまず一つは、販売力の強化です。契約取引や直接販売、業務用・加工用需要への対応など販売方式や販売チャネルの拡充に取り組みます。たとえば、当JAによる直接買取の拡大、冷凍野菜の製造販売などを検討しています。



写真の中の生け花は、香川県産花きを使用しています

もう一つは、「多様な担い手による地域農業の振興」です。高齢者の方にはできるだけ長く農業に関わっていただきたく、中核的担い手や新規就農の若い方には面積拡大をお願い

したい。そこで、農地の利用調整や農業労働力の支援を強化するとともに、フィールド支援事業の拡充やスマート農業の導入に取り組みます。たとえば、農地維持のための草刈りなども支援メニューとして展開していきます。

地域活性化へトライ!

豊かで暮らしやすい

地域共生社会の実現

「地球環境を守りながら、人が個人としての尊厳を保ち、健康で安心して暮らせる地域を造る」というSDGsの取り組みは、相互扶助による人間的価値観を基本とする協同組合の理念と同じです。第7次中期経営計画では、当JAとしてもSDGsが掲げる17の目標達成に向けた取り組みをさらに進めます。

そして、女性部や青壮年部などの組合員組織との連携を強化して、地域の活性化に取り組むとともに、「協同組合が地域を支えます」を合言葉にして、他の協同組合や商工会などの連携、正組合員の皆さまのみならず准組合員の皆さまの運営参画もはかりながら、豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めます。

中止や延期を余儀なくされていたイベントや対話活動、県下の全支店・出張所が企画・実施する支店協同活動も、今年はまた活発に開催できることを願っています。さらに、若い世代の方にも当JAをもっと知っていただくため、SNSを活用した情報発信にも力を入れていきます。



私のトライ!

次の10年へ、 新しい“柱”をつくる。

木下 睦雄さん(37歳)

【坂出市大屋富町】

県内有数の大規模農家の五代目。父の経営する「木下農園」も含めると110名、社員・パート・外国人技能実習生合わせて約75人という大所帯。坂出園芸センター洋菜部会所属。株式会社サンベジフィールド代表取締役。家族は妻と長女(2歳)・長男(生後2ヶ月)。「子どもたちが成長したら家族で畑に立ちたいです」

大学院を卒業したのち、経営学を学ぶためアメリカの大学院に2年半留学。平成24年に就農しました。今年でちょうど10年ですね。この10年間で積み重ね、経営規模を大きくしてきましたが、面積、人員の管理ともにこれ以上の規模を一人で行っていくことへの限界を感じています。これからは、経営体制の再編成や任せられる人材の育成などにも取り組んでいきたいと考えています。

ブロッコリー(95%)を主力に、多品目の野菜を生産しています。大規模経営では、栽培管理をいかに合理化・効率化していくかが重要です。ただ、丁寧に作られている香川県産ブロッコリーは市場での評価が高いので、足を引っばらないよう、品質向上にも努めています。

さらに、次の10年を見ずえて、リスク分散のため、ブロッコリーに次ぐもう一つの柱(主力品目)の育成にも挑戦していきます。



私のトライ!

“自分色”への 改革!

岡田 凌さん(31歳)

【観音寺市大野原町】

愛媛県宇和島市出身。1ターン就農で温州ミカン約200本(うち苗木が50本)を一人で栽培。豊南地区柑橘部会所属。休日の楽しみはインターネットで動画や音楽鑑賞。「農業もプライベートも充実させていきます」

地元・愛媛県宇和島市から1ターン就農し、主に温州ミカンを栽培しています。大学時代は農学部で微生物の研究をしており、農業に興味があったことから、一度就職し、退職をきっかけにミカン農家への就農を決めました。新規でミカンを栽培するため園地を探していたところ、香川県からの紹介で研修先が見つかり移住。平成26年から同町の法人農家で研修をし、その後、同町内の園地を借りて平成30年に独立しました。

今年のトライ、というより果樹栽培は数年単位の話になりますが、挑戦するのは「改革」です。園地と一緒に引き継いだ木の更新をしながら、新品種や中晩柑の新たな苗木も植えていきたいです。これまでとはかく収穫することに力を入れてきましたが、これからは園地そのものを「自分色」に変えていこうと思っています。

今シーズンの出来は上々でした。県内の皆さまに香川県産ミカンをたくさん食べてほしいです。

新春
特別企画

今年のトライ！
JA香川県の挑戦
私たちの挑戦



私のトライ!

しっかり作り、 上手に育て、広める。

花澤 美智子さん(39歳)

【高松市鬼無町】

両親と運営する「花澤明春園」の6代目。就農15年目。同園は松盆栽のを主に、桜・梅・オリーブなどの盆栽や山野草を生産・販売。「盆栽の世界で遊び尽くす父の姿がいつも目の前にあり、気がつけば同じように盆栽に没頭しています」

私は、高校、大学と県外でハンドボールに打ち込んでいました。その後、家業の盆栽の道に進むことを決意し、今は仕事に打ち込んでいます。

高松市鬼無町は全国的にも知られる松盆栽の産地。当園でも昔は黒松、五葉松を主に取り扱っていましたが、近年のお客様さまにもっと満足してもらいたいと、父の代から花ものや実ものなど多種を扱っています。

平成27年度からは、香川県産業支援財団のかがわ農商工連携ファンド事業でオリーブの盆栽「colive(コリーブ)」を作り始めました。既存のものがいい、新たな挑戦でしたが試作を続けながら完成し、昨年は200鉢を全国へ出荷することができました。今後も生産を続け、香川県の新たな土産物となっほしいです。

また、「colive(コリーブ)」をきっかけに若い人達が盆栽に興味をもってもらえればと思っています。そのために、盆栽の魅力を伝えるSNSで情報を発信していきます。

私のトライ!

消費者の 喜ぶ顔をつくる イチゴづくり。

西山 卓克さん(35歳)

【木田郡三木町】

小豆島から三木町へ移住し、令和3年4月1日に独立就農。三木町イチゴ部会所属。イチゴ「さめきひめ」10.8畝を妻と二人で栽培。「令和3年が大きなトライでした。就農したばかりなので、まずは家族を守っていきます」、寅年生まれの名男。

以前は消防官をしていましたが、その頃から自分の力でできる一次産業に興味がありました。「さめきひめ」を初めて食べた時、「こんなおいしいイチゴがあるんや」と感動。自分でも作ってみたいくなり、「1回きりの人生、やりたいことをやろう!」と、JA香川県農業インターン生として1年間研修を受け、令和3年4月に独立しました。

就農してからは、ハウスの整備、苗づくりから収穫まで、研修先の師匠をはじめ研修仲間や部会の仲間、近所の農家の先輩の皆さんにも支えられました。昨年10月29日の初出荷は感無量であると同時に、自分の名前で出荷する責任も感じました。

私が常に気にしているのは「目配り、気配り、心配り」。実際にイチゴの様子を見て状態を確認する事がとても大切だと思っています。昨年は少し病気を出してしまったので、今年はず病気に強い元気な苗を作れるようになり、その次は、規模の拡大を目指していきます。



今年こそ
始めたい!

学んで、育てるお金とのおつきあい。

JA香川県の「ライフプランサポート」

「一年の計は、元旦にあり」

まだまだ「withコロナ」とは言われますが、「今年こそは!」
という気持ちでお正月を過ごした方も多いのでは?

この機会に、「一生の計=ライフプランニング」についても
大切なお金のことを中心に、考えてみませんか?



JA香川県営業推進部営業推進課
青木 祐輔 課長に聞きました。

Q お金を取り巻く環境は
どう変化しているの?

A まず、年金の問題です。日本では少子
高齢化が進み、年金受給者を支える
現役世代の人数がどんどん減っています。少
し前にニュースなどで「公的年金だけでは老
後資金が2000万円不足する」と騒がれ
ましたが、金額はともかく個人でも備えが必
要だと、多くの人が感じているのではないで
しょうか。

もう一つ気になるのは、インフレについてで
す。インフレとは、モノの値段(物価)が上が
ることです。ある金額で買ったモノがそれ以上
の金額を出さないと買えなくなるため、実質
的にはお金の価値が減ることになります。
また、新型コロナウイルスの影響もあり、世
界的にインフレが加速すると予測する専門
家も多くいます。

Q 「ライフイベント」とは
何ですか?

A 人生には、結婚や子どもの教育、車や
リフォームなど、年代に応じてさまざま
なライフイベントがあり、それぞれにまたまった
お金が必要になります。そのときになっ
てお金が足りなくて慌てないようにするため、
これらのライフイベントを意識した資産形成
が必要となります。また、定年退職や現役引
退後のセカンドライフも、人生100年時代
と言われる今、ゆとりある生活を送るため
には公的年金だけでは足りないとも言われて
います。

結婚



教育費



住宅購入



子どもへの援助



医療費・旅行・
住宅リフォームなど



20代

30代

40代

50代

60代~

まずは
ココから!

「お金の色分け」をしてみましょう



お持ちの資産（または収入）を目的に応じて、下の図に記入してみてください。
ご家族で話し合って記入することで現状把握と目標を共有することもできますよ。

いつでも使えるお金

生活資金など毎日必要なお金や、
急な出費の際にいつでも引き出せるお金。
（おおむね3～6カ月の生活費相当）

例)

- 日常における生活費
- ローン返済費用 など

万円

普通預貯金など

しっかり貯めるお金

近い将来すでに使い道が決まっているお金。

例)

- 結婚資金
- 車の購入資金
- マイホーム購入の資金
- 子どもの教育資金
- 子どもの結婚資金
- リフォーム資金 など

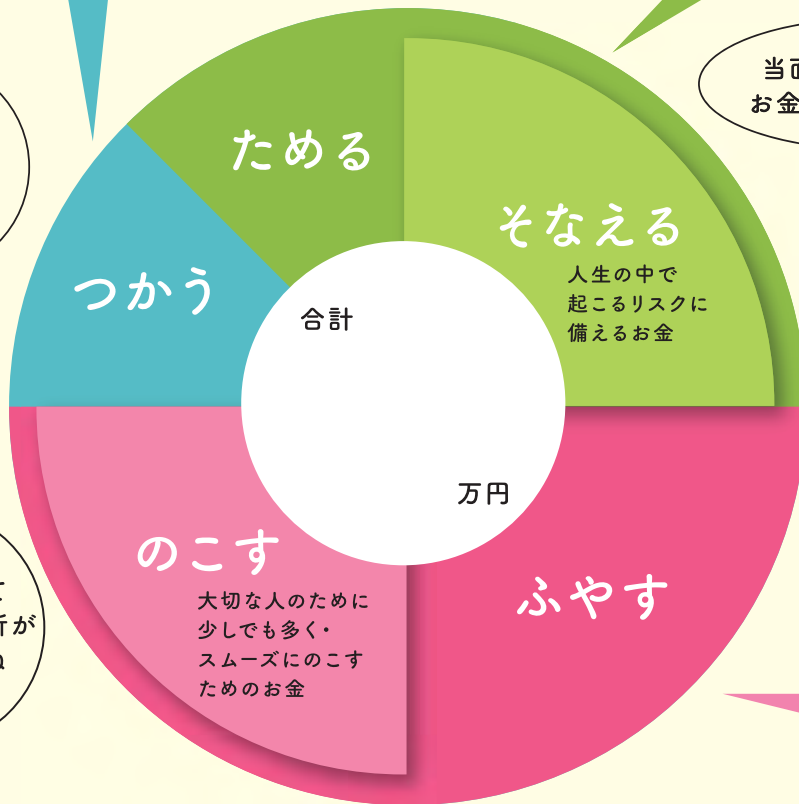
万円

定期預貯金・個人向け国債・
貯蓄性の保険・共済など

6カ月分の
生活費って
いくらかな?



目的に応じて
お金の置き場所が
変わるんだね



当面使う予定がない
お金が把握できるわね



じっくり 育てるお金

当面使う予定がなく、
将来のために増やして
おきたいお金。

例)

- 老後の生活資金
- ゆとりある生活を送るための
資金 など

万円

投資信託・暦年贈与に活用できる
保険・共済など

A 貯金・共済・投資信託・融資・iDeCo・
遺言信託など、総合的なニーズに対
応できる担当者です。複合渉外を担当する
職員のうち、研修（資産形成サポートプログラ
ム）を受け、専門知識を身に付けた職員が任命
されます。来年度以降もさらに育成を進め、
ライフプランアドバイザー（LPA）が常駐
する店舗を増やしていく計画です。

Q 「ライフプランアドバイザー
（LPA）」とは？

当JAでは、協同組合として営利目的では
なく、組合員と地域の皆さまの暮らしを守る
ことを使命とし、皆さまの将来を一緒に考え
ます。

増やす・遺すに合わせ、総合的な提案を行っ
ていきます。

当JAでは、協同組合として営利目的では
なく、組合員と地域の皆さまの暮らしを守る
ことを使命とし、皆さまの将来を一緒に考え
ます。

A 先述のようにお金をとりまく環境は
大きく変化しました。そこで、当JA
では組合員や利用者のライフイベントを踏ま
えた資産形成や資産運用の相談体制を強化
しています。「ライフプランサポート」では、
まずライフプランアドバイザー（LPA）が
「お金の色分け」（上記の図）をもとに一人
一人の資産（または収入）の状況について確
認させていただき、その後の人生設計に必要
な資金確保のニーズ（使う・貯める・備える・
増やす・遺す）に合わせ、総合的な提案を行っ
ていきます。

Q 「ライフプランサポート」とは？
なぜJAが行うの？

協同組合の“お金に関する相談のプロ”として、 組合員と地域の皆さまに寄り添いたい。



JA香川県多度津支店業務課
ライフプランアドバイザー
丸岡 里枝 職員



現在、当JAではライフプランニングのご相談に対応できる店舗を拡大中。今回は、多度津支店でライフプランアドバイザー（LPA）としてお客さまに接する丸岡里枝職員に話を聞きました。

入職9年目、同支店で渉外担当者として経験を積んできた丸岡職員は、本店での座学研修やインストラクターが同行しての実地研修を経てライフプランアドバイザー（LPA）となりました。もちろん、投資信託などを販売できる証券外務員の資格も取得済みです。

「昨年11月からのスタートですが、すでに多くの方にご相談いただいております。今、一番多いご相談は定年退職後の資産運用についてです。初めてという方も、すでに経験がある方もいらっしゃいます。『丁寧な説明でわかりやすい』『お金や将来のことについて教えてくれてありがたい』という声をいただくこともあります。うれしいですね。」

若い世代の方もiDeCoやNISAなどを入口にした資産形成を行う人が増えてきて、最近の調査では経験のある人が6割もいるそうです。当JAでもご相談いただけることを、幅広く周知していきたいです。」

高度な専門知識が必要とされる職務だけに、今も「安心して、何でもご相談いただけるように日々、勉強しています」と言う丸岡職員。



「ご自宅に訪問いたしますが、ご来店いただくこともあります。ご来店いただいた場合は、プライバシーにも配慮して応接室でご相談に応じます。」

「金融商品を買っていただくことが目的ではなく、協同組合として組合員さんの資産と暮らしを守ることが当JAの責務だと思っています。お客さまのニーズを丁寧にお聞きして、お金を取り巻く環境についてもご説明します。もちろん、投資信託などについてはリスクの説明もしっかりと行っていきます。ご相談だけでも大丈夫です。ぜひお気軽にお声かけください」と話してくれました。



ライフプランアドバイザー（LPA）をサポートする
JA香川県営業推進部のインストラクター
「職員一丸となってお客さまに寄り添います!!」

ライフプランサポートについてのお問い合わせ・ご相談は、最寄りの支店・出張所をお願いいたします。その店舗でまだ取り扱いしていない場合は、各地区のライフプランアドバイザー（LPA）におつなぎいたします。



調理時間
60分

鯛めし

鯛を贅沢に使った一品



JA香川県
女性部

JA香川県女性部は令和2年、各地域で取り組んでいる
地産地消料理を集めて一冊のレシピ集をつくりました。
その中から一品ずつご紹介していきます。

材料[4人分]

- 鯛の切り身 3切れ
- 酒(鯛のふりかけ用) 20ml
- 米 560g
- 干しいたけ(水でもどす) 2~3枚
- 油揚げ 0.6枚
- 金時にんじん 40g
- ごぼう 40g
- A 薄口醤油・醤油・酒 各40ml
- ざらめ 80g

作り方

- ①鯛は皮目に切り目を入れて酒をふりかけておく。
- ②米は炊く30分前に洗ってざるにあげる。
- ③干しいたけ、油揚げ、金時にんじんは同じくらいの大きさの千切りにし、ごぼうはささがきにして水にさらしてアクをぬく。
- ④土鍋に洗った米と米の3割増しの水を入れ、③とAを加えよく混ぜる。①のをせて強火で炊く。
- ⑤炊きあがったら、そのまま20分蒸らし、鯛の骨を除き、身をほぐして混ぜ合わせる。好みで山椒の葉を上のにせる。

ポイント

鯛に酒をふりかけておくことで、臭みがとれます。

私たちの
おすすめ

坂出中央地域女性部

「鯛めし」は坂出市の王
越地域で船乗りへのねぎ
らい飯として始まった郷
土料理。今では、真鯛の赤
色はめでたい色として重
宝され、地区の祝い事や
寄り合いで大釜を囲み、
楽しく炊きたてを食べる
のが習わしになっていま
す。
レシピでは、紅色の濃
い地元特産の「金時にん
じん」を入れることで色
鮮やかに仕上げられてい

これが特産!

★金時にんじん

一般的なにんじんよりも、甘くてやわらかいのが特徴。お正月のおせち料理にはかかせない。

